

\* 幸せを探すあなたへ

## 自殺、その後ろに かくされた秘密

**自殺者の遺書** 「複雑で死にそうだった。わけもなく、腹が立って狂いそうだった。吐き気がするほど、心の中が苦しかった。頭がとても痛くて涙が出た...泣いて笑って狂うと思った。自分が自分を失ったと思ったし、私は何かというアイデンティティーを失っていた... (故ジョン・タビン)」「私でなければ、どのように私の苦しさ分かるのか...ママのことを考えると、生きなければならぬと思うが、生きても生きているのではない...一人で持ちこたえて勝とうとしたが...できない。感情もなくて...私ではないから...一年前に帰りたいかったの...お金がすべてではないけれど、お金のために本当に大変な世の中、私もお金はきれい...(故イ・ウンジュ)」「私は何メートル競走なのかも知らずに走り続けていました。かろうじて走り続け、終着点に到着してみれば、そこは終着点でなく、また別の出発点でした。そんなことが繰り返していました。そして、終着点の水の泡だということが分かるには、何と36年もかかりました(36才で自殺)。私は一人の女性が持てる全てのものを持ちました。私は若く、美しいです。私はお金も多くて、愛に飢えることもありませんでした。数百通のファンレターも毎日届きます。だれよりも健康で、足りないことはありません。未来も、そのように生きることができると確信しています。ところが、どういうことでしょうか。私はあまりにもむなしくて、不幸なのです。確かな理由を探すわけには行かないのですが、私は不幸だと感じています。私の人生は時期が過ぎて門を閉めた海水浴場と同じです(故マリリン・モンロー)」

**埋めることができない人生のむなしさは何ゆえなのか** マリリン・モンローが感じた人生のむなしさは何だったのでしょうか。パスカルは『パンセ』で「人間は霊的な存在だ。それで、人の心の中には神様だけが満たせる空間がある」と話しました。魚が水の中で生きなければならないように、人間は神様と

もに暮らすように創造されました。ところが、サタンの策略にはまって神様を離れた人間は、暗やみと混とんとむなしさという運命のくびきを負うようになってしまいました。結局、サタンが引っ張っていく人生の目標は、滅びと死と地獄です(ヨハネの福音書 10:10)。ですから、自殺は解決策ではなく、サタンのまた別のだましごとです。世の中は私たちに目に見える人生がすべてだと話しますが、何か埋めることができないむなしさは、私たちに肉体の人生がすべてではないことを語ってくれます。ひょっとして、あなたも、今、話すことができないこのむなしさの中で苦しんでおられるのではありませんか。

**暗やみ・混とん・むなしさに対する解答** 水を離れた魚は、水でない他のどんなものでも満足できないように、神様を離れた人間は、神様との出会い以外には、他のどんなことでも幸せなはずがありません。神様に会う瞬間、あなたのすべての問題は解決されます。それで、神様はあなたを救おうと、ご自身が被造物である人間の姿で来られ、十字架に死に、復活されることによって、人間の敵であるサタンの権威を打ち砕いて、人間のすべての罪と呪いを解決して、神様に会えるように道を開いて下さいました(ヨハネの手紙第一 3:8、マルコの福音書 10:45、ヨハネの福音書 14:6)。この方が、まさにキリストであるイエス様なのです。したがって、誰でもキリストとして来られたイエス様を信じて受け入れれば、直ちに神様の子どもになります。いのちの御霊の原理が、あなたを完全に罪と死の原理から解放するようになります(ローマ人への手紙 8:2)。そして、聖霊が永遠にあなたの中に居られ、新しい人生に導いて、世の中からは与えてもらえない真の平安が与えられます(ヨハネの福音書 14:16-17、26~27)。神様がともにおられる神殿にしてくださって、あなたのたましいを最後まで守り、救いの中にある神様の子どもになった祝福と豊かな恵みを知って、味わうようにしてください(コリント人への手紙第一 2:10~12)。今、現実的に困難にあっているように見えても、結局は、全てのことを働かせて益としてくださいませ(ローマ人への手紙 8:28)。これが本当のあなたの人生の姿ではないでしょうか。

## 「・・・それだけが真に価値がある人生です」

**清掃夫ボブ** 「車にガソリンがなくなれば動かなくなるように、私たちのからだも、エネルギーがなくなれば、止まってしまいます。疲れた頭では仕事をする事ができないように、疲れた時には、再充電が必要です。人生とは、長く漬けておくほど深い味がにじみでるお茶と同じです。私たちの出会いも、すぐ目の前に見える効果を期待するより、ゆっくり深い味を醸し出すように願います。どれくらい長く生きるかは重要ではありません。どのように生きるかが重要なのです。私が悟った知恵を次世代に譲る人生..それだけが真に価値ある人生です。」今現在、2千ヶ所で清掃奉仕団を作って、クリスチャン実業人会(CBMC)の会長を引き受けているトッド・ホプキンス(Todd Hopkins)が書いた、「清掃夫パブ」(邦題:グッド・マン)に出てくる文章です。主人公のボブは、妻が伝えた人生の6つの原理を紹介しながら、人生は走って行くのではなく、自分自身の時間を持ちながら、だんだん全てのことを味わうことだと告白しました。

**信仰生活と伝道も同じです。** 私たちが目標を定めておいて走って行くのではなく、神様がくださったことを思いきり味わうということです。私たちには、多くのことをする前に、先に神様がくださる力が必要です。私には、自ら力を得る3つの方法があります。定刻祈りを通じて神様からずっと力を受けながら、世界福音化に向かった希望の旅をするのです。そして、本の中から希望を探します。時間があれば、一人で希望を抱く方法が釣りです。釣りは行く時ごとに、釣れるだろうという希望があります。そこで祈りをしながら、力を受けて、また他の希望を抱くようになるのです。清掃夫ボブがいう話を社長が聞くだけだったのに、神様のみわざが起き始め、一日中しなければならぬことが10分で解決されたりもします。神様がくださる力と希望は、全てを変化させることができます。

**力を受けた重職者は、すべてのことで主役です。最初に、神様の働きを味わう主役になります。重職者**

が祈りの力を受けることができれば、生活現場で伝道する人を見て、会うようになります。マルコの屋上の間の教会と15ヶ国の重要な人々との出会い、現場での3千人弟子との出会い、エチオピアの宦官とピリピの出会い、重職者アナニヤと伝道者パウロの出会いのように、神様の働きを見るようになって、準備された数多くのたましいが待つ伝道の黄金漁場を見るようになります。この味を知る時、イエス様がなぜ地の果てまで行けとおっしゃったのか、世界を見る目が開くようになります。**二つ目**、神様の最高の関心の対象である伝道弟子のモデルです。ダマスコにいたアナニヤにパウロを送られて、ヨッパにいた皮なめしのシモンの家を通してローマの百人隊長コルネリオをつなげられました。ルデヤを通してピリピを、ヤソンを通してテサロニケを、プリスキラ夫婦を通してコリントを生かされました。**三つ目**、教会復興と祝福の主役です。教会のすべての機関と教会学校、区域に重職者が派遣されて、すべての地域で文化別に、専門別に、国別に重職者が立てられるようになる時、神様が望んでおられる伝道の働きは必ず起きるようになっていきます。この答えを与えられる重職者を探して立てるのが、この時代に神様が願われる真の伝道と宣教の開始です。

### 伝道者の祈り

神様に感謝をささげます。

今、世の人々が分からず、知識人が分かることができず、多くの苦しみに出会っています。彼らに福音を証しして、すべての運命、呪い、災いから抜け出すようにさせてください。神様のみことばを握って、深い祈りの中で、真の答えを回復させてください。全てのことを機会にして、他の人を生かし、次世代を生かす人として立ててください。どんな場合も、揺れないでインマヌエルの祝福を味わい、神様が最も願っておられることに私の生活があるようにさせてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

# 私の伝道、私の祈り、私の現場

重職者時代 神様はサタンのしわざによって墮落して滅んでいく現場に福音の光を照らす見張り人として、肉的なことに縛られて悩む教会現場に弟子として、苦しんでいる人生のサマリヤの現場に証人として、解答を分からないでさまよう人生に福音のモデルとして、福音を待つ備えられた者に伝達者として、現場の隅々で霊的問題で苦しめられるエリートを生かすローマ 16 章の主演として、未来のために準備されたレムナント (Remnant) の土台として、重職者を召されました。こういう契約的な情念を持った重職者を、地域、地域に立てて、キリストの光を放ち、備えられた弟子を探して、地教会を立てて、暗やみを崩し、文化を生かす主演の祝福を味わうようにさせるのが重職者時代を開く理由です。

**全体を見る目を開こう!** それで、重職者は、全体を見る目がなければなりません。教会と教団、牧師と伝道、現場の事情を理解した重職者が、教会の中の機関の中に、教会学校の中に入って、各地域に重職者が入って、講壇のみことばが新しい信徒にまでよく伝えられるように手助けするべきです。初代教会のように、現場の弟子を引っ張って、自分の職業と関連した分野の専門担当者を支援するべきです。一歩進んで、文化別、国別で、重職者が立つ時、初代教会が受けた伝道と宣教の祝福を味わうようになります。それで、私たちは、本部と総会を中心に常任委員会が一つになって、聖霊の導きを受けながら、その流れの中で私たちの教会の時刻表を発見して、私のアイデンティティーを見出して挑戦するのです。私個人がどんなにできるとしても、教会を理解できなければ、どんどん大変になって、個人と教会ができるとしても、全体を知らずにいれば、何か方向が合わないようになります。全体を理解しなければならぬ理由がここにあります。

今から何を準備するべきでしょうか 「神様が一番希望されることは何か」そこに私がいればよいのです。福音は世の中も、苦難も、成功も、環境も越えることです。この福音を味わうのが祈りの中の祈り、祝福の中の祝福です。そして、人を生かす場に立って、神様の時代的要請の中に入ればよいのです。伝道者は、必ず3つの単語を握らなければなりません。私のそばにいる人が神様の恵みを見られるように、私の身分と立場、スケジュールにぴったり合う私だけの伝道方法を見出さなければなりません。そして、私だけの祈りの方法を見出さなければなりません。祈りとは、神様がくださったこと (使徒 1:1,3,8) を味わって、神様が最も重要だと思われること (神様子どもの7つの祝福) を体験して、神様がくださった重要な権威 (未信者状態 6つに勝つ権威) を使うことです。ダビデは詩を書いて賛美しながらこの祝福を味わって、パウロは深い祈りの中に入ってこの祝福を味わいました。確かに福音を持った者が行く現場に、御座におられる主が聖霊で働いて、主のみことばを成し遂げる御使いが動員され、暗やみ勢力は崩れるようになっています。それなら、私だけの聖霊の導きを受ける現場にしなければなりません。この時、自ずから成功と征服と勝利の座に立つようになる唯一性の答えを受けるようになります。

**今日から..** 神様の子どもになったということは、運命と身分が完全に変わってしまったということです。完全福音の中に入って、与えられた神様のみことばを握って、祈りのリズムを味わえば、すべての危機は必ず祝福の機会として答えられます。危機とは、神様の子どもには、ただ機会であるだけです。  
**「私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです(ピリピ 4:13)」**

説教 柳光洙牧師、整理 チャ・ドンホ牧師

## 毎日毎日の森の泉

29日(月)  
**成功者の体質を準備しなさい(1サム 16:13,23)**  
その人の考えが、すなわちその人です。今から神様の恵み、インマヌエルの考えで、小さいことにも最善を尽くして、一人でいる時、深いみことばの黙想と賛美で神様を見上げる、隠れた生活があるならば、必ず成功者の座にいるようになります。

30日(火)  
**人生の絵を描こう(ヘブル 11:1~3)**  
私たちの目標は世界福音化です。それで、すべての答えと問題と苦難は過程です。神様の計画が成就される時刻表です。神様は、この道しるべを福音を持った者、福音を味わう者、福音を伝える者に分かるようにしてください。

1日(水)  
**弟子が早く変えなければならぬこと(ガラ 2:20)**  
神様の恵みを受ければ、全てのものを土台とするようになります。どんなことでも、神様の前で考えて、7つの体質(祈り、研究、経済、運動、福音、根本主義、身分主義体質)をそろえながら、与えられたみことばを握って聖霊充滿を受ける時、世の中を生かすようになります。

2日(木)  
**弟子が早くそろえなければならぬこと(使 1:8)**  
福音で成功した人々は聖霊充滿の力と現場と社会を生かすキャラクターを持っていました。出てくるみことばの流れの中で私を発見して、個人に適應して、みことばと伝道の醍醐味を知り、人を生かす働きの社会性を持っていました。

3日(金)  
**人間主義と神本主義(創世記 13:14)**  
人間主義では大変なことをすることはできません。私の主人は私ではなく、神様です。私たちが本当に神様の前に立つのが、私自身を生かす道で、世界を生かす道です。

4日(土)  
**祈りから先に味わおう(使徒 1:8)**  
祈りの課題から作るのではなく、みことばから握らなければなりません。みことばのとおり、祈りの中の祈りは、インマヌエル、キリスト、神様の国、聖霊充滿を味わうことです。これを握って黙想の深い段階に入れば、驚くべき答えを見ようになります。

## 週間メッセージ

- 産業宣教 胎児部教会学校(出 2:1~10)
- 伝道学 運動不足、未来に対する不安 (Iペテロ 5:7~8)
- 核心訓練 準備された重職者アナニヤ (使徒 9:1~15)
- 聖日1部 アンナスの尋問(ヨハネ 18:1~11)
- 聖日2部 人を生かす場所にいる私 (ピリピ 2:1-4, 4:1-3, 10-13)



## 神は死んだ\_ニーチェ



イラスト\_ユン・スルギ

人間は宗教生活を抜け出せない条件を持っている。人間はチンパンジーから進化したと、百回、知って信じてと言っても、そのチンパンジーの先祖が宗教を持っているということを証明できなければ、進化論はどんな理論を備えても、虚構になるのだ。西洋哲学の詭弁と思想の底辺には、キリスト教が敷かれたが、福音が排除されたうわべだけのキリスト教だ。人々は、それがキリスト教だと思っているが、それは厳密に話せば、キリスト教ではない。たとえ猿が人の服を着て、いくら才能をよく働かせても、人ではないのと同じだ。福音が抜けたキリスト教に従った宗教的天才が、教会の中で食傷ぎみになりつつ、現代の苦痛を作り出した。共産主義をおもに主張したカール・マルクスや、哲学者のニーチェは、みんな神様に仕えようとした神学生であった。神様のみこころを表わそうと思った彼らが、聖書の中で会える神様に会えないので、結局は、教会を離れて、彼らだけの考えの中で新しい宗教を作ったのが、共産党であり、哲学だった。ポリシェヴィキ革命後に、レーニンが初めてした事は、赤い広場で空に向かって巨大な大砲を発射して、神は死んだと宣言したことだった。ニーチェもまた、彼の賢い哲学を要約すれば、神は死んだということで、それは20世紀の知識人の標語になった。

目に見えないが永遠な神様の存在に挑戦する宗教的挑戦は、歴史上、成功したことはない。結局、共産党は崩れて、ニーチェは精神病院で明るい真昼に暗いと言い、泣き叫びながら死んでいった。福音をのがしたニーチェの姿は、現代人のかわいそうな群像の一部分だけであるのだ。ある大学のキャンパスの壁の落書きに、こう書かれていたという。「神は死んだ-ニーチェ」しかし、数日後、その下に「ニーチェは死んだ-神様」と書かれていたということだ。大学生らしい落書き争いかもしれないが、結局、死んだ者は口がないと言われるように、ニーチェは今は何も言えないだろうという気になる。

神様が死んだというように感じる人々がいるかもしれない。今、解決できない罪があったり、他の宗教に縛られたらそうなるのだ。しかし、真の苦しみを知っている人は、神様がおられなければならない理由を知っていて、神様があられて本当に幸いだと話す。

顔は両手で覆えば良くて、空の太陽を見ないようにしたいなら、目を閉じれば良いだろう。しかし、福音を望む心の光を隠す方法は、地球上には存在しない。他の宗教に従うのは自由だが、その自由がたましいの自由まで保障することはないのを、だれよりも自分自身がよく分かるだろう。宇宙すべてを造られ、一番小さい人生である私のすべての問題を解決してくださったイエス、すなわちキリストであるそのお方が、今でも生きておられて、あなたを呼んでおられる。だれでも福音に来さえすれば、どんな問題でも解決されるようになる。その方は、キリスト、すなわちすべての問題の解決者であるからだ。

文\_チョン・ヒョングク牧師(福音コラムニスト)

\*相談したい方は、こちらに連絡ください